

私のふるさと

福島小学校での活動

福島小学校の玄関には「いろはかるた」が展示してあります。また、小学校3年生では、社会科の中で地域を知ろうという授業があり、それに合わせ総合的な学習の時間に「いろはかるた」を活用して福島の史跡めぐりなどを行っています。かるたを活用することによって、子どもたちは遊びながら地域に興味を持ち、地域を知ることができるのです。

「いろはかるた」の研究

この総合的な学習で「いろはかるた」に触れ興味を持った人がいます。現在、福島中学校1年生の徳田紗弥子さん（福島・伊万里釜、12）です。紗弥子さんは、小学校3年生の時、総合的な学習の時間の中で、「いろはかるた」に出てくる史跡などを何カ所か巡りました。授業では、学校の近くだけしか回らなかったため、48枚に描いてあるすべてを回って、

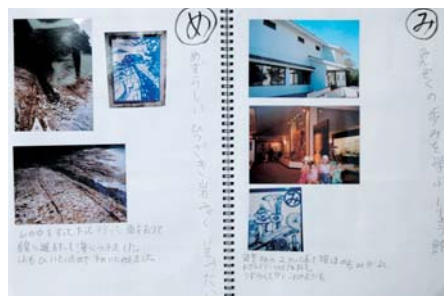
もつと「いろはかるた」のこと、福島のことを知りたいと思いました。

そこで、夏休みを利用して家族の協力を得ながら「いろはかるた」巡りが始まりました。この自由研究は、6年生までの4年間続けました。

3年生の夏休みにほぼ全部の場所を回り、写真を撮り感想を書き入れ1冊のノートにまとめました。4年生と5年生の夏休みには、さらに詳しく調べまとめました。

6年生になると、史跡にまつわる歴史や背景などを福島図書館で調べたり、地元の人に聞き取り調査をしたりして「いろはかるた」研究の集大成としてまとめ上げました。この年は、弟の孝喜くん（当時小学校3年生）も紗弥子さんとともに「いろはかるた」を巡り地図を作りました。また紗弥子さんは、「いろはかるた」を調べることを通して感じたことなどを、松浦ライオンズクラブ第22回小中学生弁論大会で発表しました。

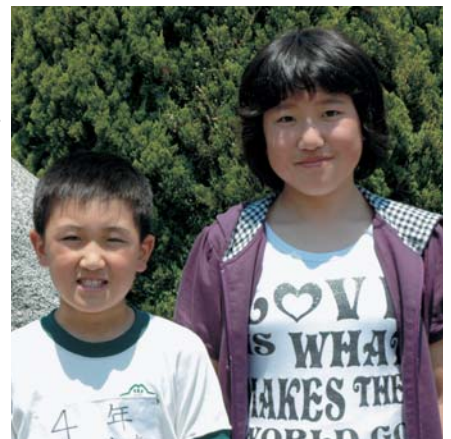
▼紗弥子さん3年時の夏休み子ども作品展への出展作品



▲紗弥子さん6年時の夏休み子ども作品展への出展作品



▶徳田紗弥子さん（福島中1年生、写真右）と孝喜くん（福島小4年生）



▲昨年の夏休み子ども作品展への出展作品と一緒に記念撮影（紗弥子さん6年生、孝喜くん3年生）。どちらの作品も奨励賞に選ばれました。



自然の楽園 私のふるさと

福島小学校6年 徳田 紗弥子

みなさんは、「福島町いろはかるた」をご存知ですか。福島町いろはかるたは、今から30年前、いろはにほへとを使って町おこしのためにつくられたもので、それぞれ福島町の名所や伝統芸能が語られたかるたです。

私は、3年前の総合学習で「福島町いろはかるた」と出会い、私を通して家族みんながいろはかるたのとりこになりました。最初は聞き慣れない言葉に意味も分からず覚えていましたが、リズムにのって毎日の音読でおこなううちに家族みんながゲーム感覚で覚え始めました。祖父母も「なつかしかねえ。」と昔を思い出しては話がはずんでいきました。祖父母の話を聞いていく中で、私達の知らない福島町が見えてきました。

その年の夏休みに家族で史せきめぐりをして、小さな町でも知らないことにおどろきました。

あれから3年の月日がたち、保育園生だった弟も3年生。3年前の私のように今、「いろはかるた」の音読をしている弟の姿を見て小学校最後の夏休みもう一度家族で回ってみたいになりました。家族みんな大賛成！

いよいよ長い夏休みがスタートしました。ガイドブックと地図をにらめっこ。カメラを片手に出発！簡単に探し出せると思っていたところ、これがなかなか手強い相手ばかり。祖父母や地域の人にたずねながら奥深いいろはかるたの世界に引き込まれていくのでした。年長組の妹も宝探しをするかのように、われ先に見つけようと一生けん命でした。

映画なつかし鯛の鼻

鯛の鼻炭こう跡地には、今だに当時の建物や機械や炭こうのぎせいとなった方をまつる観音様があり、それらを目の前にすると、行ったことのない昔にタイムスリップしたようでした。

図書館から「にあんちゃん」のビデオを借りて家族で映画かん賞を楽しましました。映画で観た映像とははるかにかけはなれた風景に「昔はこ

の場所にたくさんの人たちが働いていたんだなあ。」と不思議な気持ちになりました。

見晴らし大山展望台

「えのような」
「落日のながめは初崎展望所」
など、あらためて福島の自然の素晴らしさにも気づかせてもらいました。昔も今も、そしてこれからも大切に残して伝えていきたいものがたくさんあります。

地域の方々によって見守られ、保存されている史せきもあれば、人の手が入っておらず草むらの中説明が書いてある立て札だけでなく、史せきさえもかくれてしまっているところもありました。あちらこちらにゴミが落ちていたのにとても残念な気持ちになりましたが、兄弟でゴミ拾いをし、きれいになった所を見て笑顔で帰りました。

この夏、みんなで一つの目標に向かって取り組むことができ、家族のきずなも強くなりました。そして、あらためて福島のすばらしさに気づき、今まで以上に福島が大好きになりました。

先人が残してくれた郷土の史せきや伝統は地域の宝です。これらは私達の先祖の努力の足跡であり、時代を超えて私達の心を豊にしてくれる物です。今を生きる私達の役目はその史せきや伝統という地域の宝を守り、受けついでいくことだと思います。私が大人になったら、福島の子ども達に福島のすばらしさを伝えられる人の一人になりたいです。

みなさんの地元にも、知っているようで知らないことがたくさんあるかもしれません。

自然と歴史あふれるふるさと、松浦。もっとたくさん愛される町にしてみませんか。

〜平成21年11月3日、松浦ライオンズクラブ第22回小中学生弁論大会での発表より〜

